

1 『学園祭風俗10分1発コース』隣のクラスの王子様系女子とナイシヨの生ハメ』

2 ASMR 脚本

3

4 ◆登場人物

5 ■ヒロイン紹介…王子ちゃん

6 ・あなたと同じ学園に通う。隣のクラスに在籍している。

7 ・中性的で端正な顔立ちから女子生徒からの人気が高い。

8 ・その実、根は女の子らしいものが大好きで、王子様との幸せな未来を

9 夢見たりもしている。

10 ・学園祭風俗では男性の相手をしたと考えていたが、女の子しかお客に来ず、

11 自分に魅力がないのかとちょっと落ち込んでいたりする。

12

|    |                                      |
|----|--------------------------------------|
| 13 | 【学園祭風俗「二分一発コース」隣のクラスの王子様系女子と         |
| 14 | ナイシヨの生ハメ〜】                           |
| 15 | 場所…学園・教室                             |
| 16 |                                      |
| 17 | ▼学園祭風俗を利用したあなた、カーテンで仕切られたブースに入る      |
| 18 | ▼カーテン越しに、あなたの影を見て、クールな感じで            |
| 19 | 「ああ、次の子猫ちゃんが来たようだね」                  |
| 20 | 「いつでも入って…」                           |
| 21 |                                      |
| 22 | ▼あなた、入室                              |
| 23 | SE…カーテンが開く音                          |
| 24 | SE…足音                                |
| 25 |                                      |
| 26 | ▼王子ちゃん、男子が入ってきて驚き                    |
| 27 | 「…驚いた。まさか男の子のお客様とはね」                 |
| 28 | 「いや、別に構わないよ。僕は男女共に受け入れているし…」         |
| 29 | 「君…たしか隣のクラスの子だったよね？」                 |
| 30 | 「うん、知っているよ。この学園の子は全員顔を覚えている」         |
| 31 | 「それにしても…ふふ、男の子が僕を指名するなんてね」           |
| 32 | 「ああ、僕のお客様は子猫ちゃんばかりだね…」               |
| 33 | 実は男性のお客様は君がはじめてなんだ」                  |
| 34 | 「そんなわけで…男の子にも需要があったと考えると、            |
| 35 | 少し嬉しくなってしまったんだ」                      |
| 36 | 「本当さ。僕みたいなのよりも、男子受けしそうな子は「まん」といるだろ？」 |
| 37 | 「…ん、まあおしゃべりばかりしていても仕方がないか」           |
| 38 |                                      |

39  
40  
41 ⑦近  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51 ⑥接  
52  
53  
54  
55 ⑥近  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64 ⑥接  
65

▼王子ちゃん、立ち上がり、あなたの前まで移動

SE：足音

「時間も限られていることだし…」

「早速、はじめていこうか」

▼間

「ふふ…キスをご所望とは…僕に求めるものは子猫ちゃん達と  
変わらないのかな」

「じゃあ、はじめようか…」

▼顔を近づけながら

「ふう…ふう…」

▼キス

「んっ…ちゅっ…」

「僕の唇はどうかかな？ ふふ…」

▼あなたの物足りなさそうな顔を見て

「…ん、ああ、すまない。どうしても子猫ちゃん相手のやり方に  
なっちゃって…」

「男の子相手なら、もう少し激しめのほうがいいのかな？」

「こんな感じで…」

▼連続キス

「ちゅっ…ちゅうつ…んふ…ちゅっ、ちゅう…」

▼あなた、激しくキス。王子ちゃん、驚きつつ応じる  
「ん…！　ちゅっ！　ちゅっ！　んふっ！　んっ！  
ちゅっ、ちゅうっ…んんっ！　ちゅっ、ちゅうっ…ちゅっ！」

▼口を離し、内心動揺しながらも余裕な感じを見せて

「…んんっ、はあ、はあ…はは、驚いた…」

「こんな情熱的なキスがご所望だったとは…」

「んん…いや、構わない…」

「あまり経験はないけど…こういうのも悪くはないね…」

「ああ、君の好きなようにやってくれ」

▼ゆっくり顔を近づけ

「はあ、はあ…はふう…」

⑥近↓⑥接

▼キス開始

「んっ！　んんっ！　んちゅっ！　ちゅうっ…ああ…んっ！

ちゅっ！　ちゅう！　ちゅぶうっ！」

▼後半、ディープキスに変化

「ふう、ふうっ…！　んふっ！　ちゅっ、ちゅうっ！　んんっ！

ああ…れる、れるちゅっ…」

「あふっ、れろれろ、んんっ！　れるう…れるれるっ、れろちゅっ…

ちゅぶっ…んんっ！　んちゅっ、ちゅっ…れるれる、れろっ！

んちゅうっ！」

|     |                                 |
|-----|---------------------------------|
| 91  | ▼動揺と興奮を隠せなくなりつつ                 |
| 92  | 「ふはぁ…はぁ、はぁ…んんっ！ はぁ、はぁ…ふう…」      |
| 93  | ⑥近「す、すまない…その…想像以上に激しくて…んんっ…思わず… |
| 94  | ん、はぁ、はぁ…」                       |
| 95  | 「これが…男女の…本当の…キス…」               |
| 96  |                                 |
| 97  | ▼もじもじしながら                       |
| 98  | 「あの…君…」                         |
| 99  | ⑤近「その…頼まれてくれないか…」               |
| 100 | 「実は…男の子とこういうことをした経験がなくてね…」      |
| 101 | 「子猫ちゃん達のガードが激しいんだ…でも…」          |
| 102 | 「僕だってひとりの女の子なんだ…だから…その…」        |
| 103 | 「君が良ければなんだけど…」                  |
| 104 | ⑥近「その…僕を女にしてくれないか…」             |
| 105 | 「今しかチャンスはないんだ。日常に戻ったら僕はまた…      |
| 106 | 皆の王子様にならないから…」                  |
| 107 | 「だから…頼むよ」                       |
| 108 |                                 |
| 109 | ▼あなた、頼みを引き受け                    |
| 110 | ▼間                              |
| 111 |                                 |
| 112 | ▼嬉しそうに                          |
| 113 | 「…ありがとう」                        |
| 114 |                                 |
| 115 | 「じゃあ、早速…始めようか」                  |

|     |                                     |
|-----|-------------------------------------|
| 116 | ▼人`で服を脱ぎ、王子ちゃん、着替え中の吐息。             |
| 117 | 「ふう…ふう…んっ…」                         |
| 118 |                                     |
| 119 | SE：衣擦れ音                             |
| 120 |                                     |
| 121 | 「ど、どうだろう…僕の…その、身体…おかしくはないかな？」       |
| 122 |                                     |
| 123 | ▼あなた、何かしらの反応                        |
| 124 | ▼間                                  |
| 125 |                                     |
| 126 | 「ん…なら良かった」                          |
| 127 | 「それにしても…君の…その大きくなっているのが…その…」        |
| 128 | 「ちん…ちん…なんだよね？」                      |
| 129 |                                     |
| 130 | ▼恥ずかしそうに                            |
| 131 | 「うう…実物を見るのは、初めてだ…」                  |
| 132 | ⑥近↓⑦近                               |
| 133 | ▼王子ちゃん、あなたの股間を手に取り                  |
| 134 | 「変わった感触だ…熱くて、柔らかいようでいて…芯の方は固くて…     |
| 135 | はぁ、はぁ…」                             |
| 136 | 「はぁ、はぁ…こんな大きなものが…本当に女性の…僕のに…入るのかい？」 |
| 137 | 「にわかには信じられないけれど…」                   |
| 138 | 「でも、僕の中の女性が、これを受け入れたいと言っているような      |
| 139 | 気がするよ…」                             |
| 140 |                                     |
| 141 | SE：水音                               |
| 142 |                                     |

143 ⑥近

「ふう、ふう…こんなに濡れてしまっているからね…」

144

145 ▼王子ちゃん、横になり足を広げて

146 SE…衣擦れ音

147

「だから…んっ…」

149 「来てくれ…」

150

151 ▼あなた、挿入

152

153 SE…挿入音

154

155 ▼王子ちゃん、勝手に声が漏れて

156 「んおっ…！ おお、おおっ…んんっ！」

157 「はあ、はあ…これ…がお…ちん…ちんっ…」

158 「んんっ…僕の中をグイグイと押し広げて…んっ！ んううっ！」

159

160 ▼挿入を終えて

161 「はあ、はあ…いや、大丈夫…」

162 「少し窮屈な感じはするけど…痛くはないし…んんっ…ふう、ふう…」

163 「僕に構わず、動いてくれ…」

164

165 ▼あなた、ピストン開始

166 SE…ピストン音 ※継続

167

168 ▼王子ちゃん、驚きながらも感じつつ

169 「んんっ…ん、んう…ふう、はあ、はあ…ふう…んっ！  
170 ふう、うう…んっ！ んっ！」

171 「あっ…ふう、ああ！ んっ！ んっ！ んっ！ これ…中…動いて…」

172 「これが…男女の…セックス…♡ はあ、んう…うううっ！ はあ、はあ…」

173  
174 ▼快感から変な喘ぎ声が出る

175 「んっ…おっ…んんっ！ これ…勝手に声が漏れて…ううっ…」

176 「おっ…んう…おお…おっ…ううっ！ おお…ほっ…ほお…ほおおっ…！」

177 「す、すまない…こんな変な…声…でえ…

178 んおっ…おおっ…ほっ！ ほおっ！」

179 「でも…気持ち…良くて…んおっ！

180 抑え…られないんだっ…んおっ…！ おっ！」

181  
182 ▼めちやくちや感じて

183 「ううっ！ ああっ！ これ…駄目っ！

184 頭…バチバチしてえ…おおっ！ んおっ！」

185 「おっ！ おっ！ おおお…ほっ！ ほおっ！ んおっ！ おっ！

186 おおおっ！」

187 「ふっ、ふう…！ んんっ…はあ、はあっ！ おお…んっ！

188 おおおっ…んんっ！」

189 「ふう、ふう…中…どんどん大きくう…なるじゃないかっ…おおっ！

190 んっ！ んんっ！」

191 「…これは…気持ちがいいって…こと…なのかい？

192 ふうっ！ んっ！ はあ、はあ…ふううっ！」

193 「…はあ、はあ、んおっ…なら…良かった…おおおっ！」

194

⑦近↓⑥近

195

「んおっ、おっ、おおっ…んんっ！ では…せっかくの機会だ…」

196

「最後まで…そのまま…僕の中を…堪能…んっ！ して…ほしい…なあ♡」

197

「んんっ…言葉通り…さあ…んおおっ！」

198

「僕の…中…中に…君のを…出して…んっ！ ほしいんだ…んんっ！」

199

「言っただろう…僕を…おおっ！」

200

僕を女の子にして…ほしい…ってっ！ んっ！ おおおっ！」

201

▼あなた、腰のスピードを上げて

202

SE:ピストン音 早い 継続

203

「ほっ、おおっ！ ほっ、おおっ！ んんっ！ だから、出してくれ…」

204

「全部、全部うっ…んんっ！ 君の精液を…全部…僕の中にいっ！」

205

「ほら、上がってきたんだろう？ んっ！ 精液…」

206

▼女の子っぱさをだして

207

「誰にも使われていないここに…出して…王子じゃない…」

208

女の子のわたし…にい♡」

209

「んんうっ…だし…てえ♡」

210

▼あなた、射精

211

SE:ピストン音 終了

212

SE:射精音

213

|     |       |                                               |
|-----|-------|-----------------------------------------------|
| 218 |       | ▼王子ちゃん、絶頂                                     |
| 219 | ⑥近↓⑤近 | 「んっ！ おっ…んうううううっ！」                             |
| 220 |       | 「はぁ、はぁ…出てる…本当に…熱いのが…んんっ！」                     |
| 221 | ⑤近↓⑥近 | 「これが…男女の…セックス…なんだね…おお…」                       |
| 222 |       | 「ん…今日は付き合ってくれて…ありがとう」                         |
| 223 |       | 「おかげで、いい経験ができたよ…はふう…」                         |
| 224 |       |                                               |
| 225 |       | ▼王子ちゃん、起き上がり                                  |
| 226 |       | SE…衣擦れ音                                       |
| 227 | ⑥近↓⑦近 | 「だが…僕がサービスするはずだったのに、<br>こんなことになってしまったのは良くないな」 |
| 228 |       |                                               |
| 229 |       | 「だから…この埋め合わせはまた別にさせてくれないか？」                   |
| 230 | ⑦近↓⑥近 | 「その…今日と同じように…」                                |
| 231 |       | また、僕の身体を使ってくれて構わないから…さ」                       |
| 232 |       | 「ん…じゃあ、また声をかけるよ」                              |
| 233 |       | 「今日はありがとう…」                                   |
| 234 |       | 「君は…僕の初めての王子様だよ」                              |
| 235 |       |                                               |
| 236 |       | ▼優しくキスして終わり                                   |
| 237 | ⑥接    | 「ちゅっ…」                                        |
| 238 |       |                                               |

END